

SO2R

JJ1SXA/池

私の無線運用スタイルは、超時代遅れであることをこれでもか、これでもかと嫌になるような技術が進行している、SO2R(Single Operator 2Radio)を駆使する局がいる。

コンテスト時に、早い話が一人のオペレータが2台の無線機を操り、一方でQSO中に、もう一方の無線機でCQを出すというスタイルで時間のロスを極端に少なくするという方法で、局数稼ぎをするという離れ業だ。

これをやるには、基本的に、運用するバンドごとにアンテナを用意し、無線機も2台、それに別々にリニアアンプも備え、当然PCと、SO2R controller(市販されている)で、両耳で違う信号を聞き、的確に対応するというものだ、正に、超人的な運用スタイルだ、最近始まったものではなく、国内でも10年位前にはもうやる局がいた。

私は、CWでコンテスト参戦の時、キーイングが遅く、高速CWの受信に、キーボードは全く使えない、右手での手書きの紙ログだ、エレキーの操作も同じペンを握る右手だ、そして、左手で、リットの操作と、250Hzの狭帯域のフィルターを入れたり切ったりに使って、運用していた、

大分以前にCQ誌の記事で読んだ、受信回路を2系統に改造、一方で普通に受信、もう片方を狭帯域のフィルターを繋いで、近接の強力信号から逃れたり、ゼロインで無く呼んでくる局へ対応をするものとの事だった、同じようなことを人力で実行する、これも結構な技術だと思っていたが、とんでもない勘違いだった。

今や、無線のスタイルは大きく変わっている、DXCCを追いかけるのも、ワッチして探すなどというのは大昔の話、珍カントリー(いや今はエンティティだった)も、事前に運用場所・コールサイン・周波数等が発表される、そうで無くても直ぐにクラスターに載る、それと大設備で無くとも簡単にDXとQSOできるFT8などが出現した、DXCCはおろか、オナーロールの価値も大幅に下落した感がある。

QSLカードの取得も、以前は何かと金がかかったが、今は、LoTW(Logbook of The World)なるシステムでカードを取得しなくてもDXCCが申請できるし、どうしてもカードが欲しければ、eQSLというシステムもある、一昔前とは全く違った世界になった。

VoIPの技術が、アマチュア無線に持ちこまれてから久しいが、初期の頃は、あんなものは無線じゃ無いと忌避する局も多かった、私が、Wiresのノード局を立ち上げた時など、「そんな物無線じゃ無いから止めろ」との苦情が直接舞い込んだ、50MHzのFMを運用する局だったので、売り言葉に買い言葉、アマチュア無線の原点は、無線機を自作することから始め、モードはCWというのが私の見解だ、その後、AMからFM、SSB、と技術は変遷した、FMモードは大分後発のものでは無いか、FMで運用しているのは無線をやってるとは思わないという局もある、次世代の運用スタイルを否定するのはとんでもないと言い返し、その後は無視を決め込んだが、相手は沈黙したようだ。

新しいことに取り組むことは、アマチュア精神の原点だ、自分が付いていけないから、理解できないから否定するなどはトンデモ無い話、とはいうものの、日進月歩で進化する事象にはとてもついていけない、情けないがそれが現実だ。